



鹿中だより

鹿ノ台中学校

校長 三村明弘

平成30年6月19日

生徒総会 鹿中 PRIDE !

6月8日(金)の午後から生徒総会を開催しました。生徒会長の松岡さんの力強い挨拶に始まり、議長の福本さんと中嶋さんの進行のもと、生徒会活動方針、委員会活動計画等が提案されました。審議はスムーズに進行し、最後に松岡会長から共同募金への協力等、社会貢献への取組の話があり、総会は終了しました。この素晴らしい鹿中を、もっとよりよくするために、日頃から感じていること、現在の鹿中の課題等を生徒会役員中心に先生達と一緒に考え、「大好き鹿中!」と、みんなも先生も全員が誇れる鹿中を作っていきます。



クリーンアップキャンペーン

6月13日の午後にクリーンアップキャンペーンを実施しました。天気も晴天に恵まれ、多数の自治会や民生委員さんをはじめ地域の方々、保護者の方々の協力のもと、たくさんのゴミを収集し、たくさんの雑草も刈ることができました。本当に感謝と感激です。みなさんありがとうございました。

日頃からきれいな街に住んでいると、なかなか感じるのが難しいものですが、自分の街がずっときれいなのはどうして?そのきれいな街を維持し、守っていくために自分は何ができる?自分たちの周りにはこんなに素敵な大人の人がいっぱいいる。そんなことを感じてくれた人もたくさんいたのではないのでしょうか。ちょっと暑い中での作業の後、みんなの清々しく美しい笑顔がまぶしくて、とても嬉しい時間になりました。



どんぐり坂



中央公園



学校周辺



素盞鳴神社

各家庭の音せは神樹のある生活から
素盞鳴神社

もうすぐ沖縄の特別の日 6月23日「慰霊の日」

この詩は、昨年の沖縄全戦没者追悼式で、宮古高校3年の上原愛音さんが朗読した自作の詩「誓い～私達のおばあに寄せて」です。私たちは、今年も、これからもずっと6月23日を忘れず、永遠の平和を願い、誓いたいと思います。

誓い～私達のおばあに寄せて

宮古高校3年 上原愛音

今日も朝が来た。母の呼び声と、目玉焼きのいい香り。いつも通りの平和な朝が来た。
七十二年前、恐ろしいあの影が忍びよるその瞬間まで、おばあもこうして朝を迎えたのだろうか。おじいもこうして食卓についたのだろうか。

爆音とともにこの大空が淀んだあの日。おばあは昨日まで隠れんぼをしていたウージの中を友と歩いた砂利道を裸足のまま走った。三線の音色を乗せていた島風に鉄の臭いが混じったあの日。おじいはその風に仲間の叫びを聞いた。昨日まで温かかったはずの冷たい手を握り、生きたいと泣く赤子の声を抑えつけたあの日。そんなあの日の記憶が熱い血潮の中に今も確かにある。決して薄れさせてはいけない記憶が、私の中に私達の中に確かに刻まれている。

少女だったおばあの瞳いっぱいにとまった涙を、まだ幼かったおじいの両手いっぱい握りしめたあの悔しさを、私達は確かに知っている。

広がりゆく豊穡の土に芽吹きが戻り、母なる海がまた、エメラルドグリーンに輝いて、古くから愛された唄や踊りが息を吹き返した今日。でも勇ましいパーランクーと心臓の拍動の中に脈々と流れ続ける確かな事実。今日も一日が過ぎゆく。

あの日と同じ刻ときが過ぎゆく。フェンスを飛びこえて締め殺されゆく大海を泳いで、癒えることのないこの島の痛み。忘れてはならない民の祈り。

今日響きわたる神聖なサイレンの音に「どうか穏やかな日々を」先人達の願いが重なって聞こえる。

おばあ、大丈夫だよ。今日、私達も祈っている。尊い命のバトンを受けて、今祈っている。

おじい、大丈夫だよ。この島にはまた笑顔が咲き誇っている。

私達は、貴方達の想いを、指先にまで流れるあの日の記憶を、いつまでも紡ぎ続けることができる。

誓おう。私達はこの澄んだ空を二度と黒く染めたりしない。

誓おう。私達はこの美しい大地を二度と切り裂きはしない。

ここに誓おう。

私は、私達は、この国は、この世界は、きっと愛しい人を守り抜くことができる。

この地から私達は、平和の使者になることができる。

六月二十三日。銀の甘蔗（かんしょ）が清らかに揺れる今日。

おばあ達が見守る空の下、私達は誓う。私達は今日を生かされている。

